

「日本・アジア学」教育プログラムは、

文系・理系を問わず、激動するアジアを広く、 そして深く知ることができるカリキュラムです。



東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク





「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学 院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

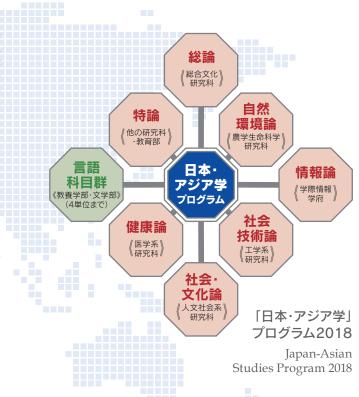
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得し、大学院修士課程または博士課程を修了(博士課程満期退学を含む)した場合に、プログラムの修了を認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

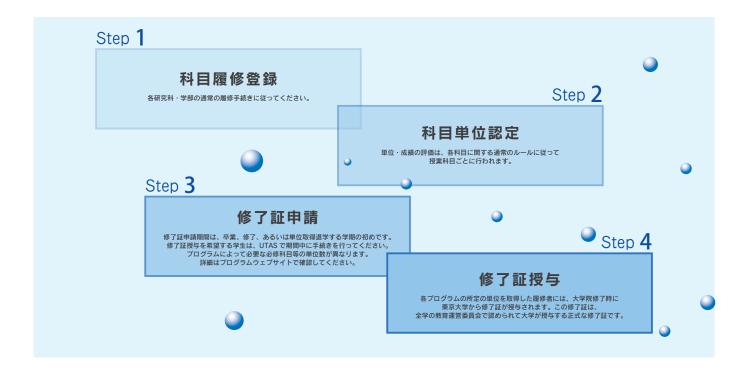
Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, and with the completion of graduate program, recognition will be given of Japan-Asian Studies program completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.





科目履修方法

東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している 学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々 の科目のみを履修することも歓迎します。

履修にあたっては、UTAS上で登録を行ってください。ただし、UTASに 対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってく ださい。

また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となってい ない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の 履修は「学部科目履修」の手続きを行ってください。

1. Program participation: Enrolling each course

All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.

To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.

プログラムへの参加

「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方 は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局か ら、適宜、連絡を受けることができます。

https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe

2. Program participation: Enrolling the program

All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.

https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe

修 3. Completion

修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満 たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUTASにて手続 きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびに ASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUTASに 対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いて ください。

Please submit Certificate Request through UTAS website, if you are able to use the UTAS system. Otherwise, please ask the network office.

注意事項

▶最新情報は常にホームページで確認してください。

●何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡 ください。

https://asnet-utokyo.jp/

4. Important points.

>Please check the website regularly for information updates. >Please direct any inquiries to the network office.

https://asnet-utokyo.jp/

受講生の声

- ●受講生/笹 孝明
- ●所 属/農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻 修士課程

「世界を多角的に捉えるために」

普段は稲に関する研究を行っていますが、先生の紹介がきっかけで ASNET のスタディーツアー「現代を生きる アイヌ民族とその伝承」に参加しました。研究とは全く異なる分野に飛び込む形となりましたが、そんな私でも様々 なことを吸収することができるくらい密度の濃いツアーでした。

観光目的で訪れることが多い北海道ですが、そこに暮らしているアイヌ民族に関しては、教科書程度のことしか

知りませんでした。そんな折、今回のツアーでアイヌ民族 の方に直接お話を伺うことで、これまで知らなかった北海 道の歴史も含め、文化の多様性からみた日本のあるべき姿 を垣間見ることが出来ました。

研究室では自分の専門分野にばかり目が行きがちです が、一歩引いて周りを見回すと大学には魅力的な取り組み が多く存在しています。多角的な視野が求められる今だか らこそ、『日本・アジア学』のような分野横断型のプログ ラムが必要だと感じました。



白老町のアイヌ民族博物館にて

●受講生/ Daniel Beckurts

●所 属/ International Public Policy, M.A.

During my two-year Master's studies of Public Policy at the University of Tokyo, I endeavored to learn about Asia from diverse perspectives and thereby gain a comprehensive understanding of the subject.

For this purpose, I joined the Japan-Asian Studies Program (ASNET) with its broad selection of interdisciplinary courses. To pursue my ASNET degree, I studied the economic, historical and cultural nexus of Asia and gained an appreciation of the various peoples and customs of the region. One highlight from the program was attending the Joint Summer Program of the National Taiwan University, University of



A bonding moment between participants of the summer program.

Illinois and the University of Tokyo. The exchange took place in Japan and Taiwan and consisted of various academic courses and cultural activities. I had the unique opportunity to interact and forge friendships with students from culturally diverse backgrounds by working together on a research project and its presentation.

My participation in ASNET privileged me to understand policy matters both from a macroeconomic perspective and at the personal level of human interaction. The program made my stay in Japan all the more worth it.



- ●受講生/信夫あゆみ
- ●所 属/工学系研究科 社会基盤学専攻 修士課程

知らない世界にどう踏み込み、どう理解していくか

日本・アジア学では、「アジアのフィールドワーク論」という講義を履修し、スタディツアー「ミャンマーの農・ 食・環境・社会に触れる」に参加しました。私は卒業論文で、インフラという工学的な観点からカンボジアで調査 をしていましたが、異なる分野の研究者の方々によるフィールドワークのなかでのアプローチや葛藤、抱かれた世 界観についてのお話は、自分の見方を相対化させられ新鮮でした。スタディツアーでは、ミャンマーの自然や人々

の暮らしの場を訪問することができた一方で、農村や市場、行 政機関、国際機関までのさまざまな立場の方と直にお話しする 機会があり、メディアを通したものとは一味違う自分なりのミャ ンマーのイメージを、自分の目やそこで生きる方々のお話を通 じて形成するという経験ができました。

このプログラムを通じて、知らない世界にどう踏み込み、ど う理解していくかを、考えることができるのではないでしょ うか。



農村で子供たちと

●受講生/徐 偉信

●所 属/総合文化研究科 国際社会科学専攻 博士課程

亚洲之大、兼容并包、兼收并蓄。「日本・アジア学」的课程、既可以让你领略亚洲文化的博大精深、又能 够带领你触摸悠久曲折的历史脉络、体悟这片土地的神奇魅力。

2017 年是我第五次参与「書き直される中国近現代史」课程、恰逢这门课程迎来了开设后的第十个年头。「書 き直される中国近現代史」聚焦跌宕起伏又惊心动魄的中国近现代史、用历史的叙述、为希望进一步了解中国 的学生了提供丰富的学习内容。2017年度的课程以近现代中日关系史为主题、用"历史"、"记忆"和"展望" 三个关键词、串联起中日关系一百多年的变化历程、勾勒出一幅中日两国各自走向近代化、工业化并共同迎接



史料調査で訪れた上海にて、档案館正門からの浦東の風景

全球化的历史画卷。课程每周均由不同讲师担当、讲师 团队既包括了目前中日关系研究的权威学者、又有活跃 在中日关系第一线的外交官和智库分析人士、教室时常 座无虚席。课程内容涵盖历史学、政治学、社会学、国 际关系学等多个领域、不同的讲师带来不一样的分析视 角。课后、多元的论点仍在耳边回响、在脑海中激荡、 碰撞出思维的火花。学生通过这门课程能够了解观察事 物的不同方法、并可以尝试着独立自主地去感知、认识 和反思历史、重新审视我们所在日本和亚洲。

科目紹介

●担当教員:徐 行(東文研・ASNET)・後藤 絵美(ASNET)

科目名:アジアの法とマイノリティ

法とマイノリティの問題は国によって大きく異なります。日本では憲法 14条に法の下の平等が規定されており、 マイノリティに対する差別を形成・助長する法の存在は原理的に否定されています。ただし同じ条文が差別を是正 するための積極的な優遇措置の導入に対しても抑止的な効果を持っているのです。結局、既存の社会的少数者に対



2年以内にアジア初の同性婚が実現することとなった台湾・台北市で行われ た2017年のLGBTプライドパレードには約12万人の参加者が集まった。

する救済を法のレベルで行うことには往々にして大きな困 難が伴います。それと対照的に、中国では少数民族に対し て、計画出産の適用除外や、大学入試における点数の割増 といった優遇措置がごく一般的に行われており、最近まで それに対する異論もほとんど存在しませんでした。

本講義では、日本社会における法とマイノリティの現状 を理解するための手がかりとして、日本と海外の具体的な 事例を取り上げます。そうして日本を相対化し、柔軟に偏 見なく異文化(法と社会構造を含む)に接することができ るグローバルな視野を身につけることを目指します。

●担当教員: Tetsuya Araki (Agriculture)

●科 目 名:アジアの食と農・環境 ~農学国際特論Ⅲ~ (Food, Agriculture and Environment in Asia)

In addition to the dictionary meaning of food (something that living creatures take into their bodies to provide them with energy and to help them to develop and to live), agriculture (the practice or science of

farming, esp. of growing crops) and environment (the natural conditions, such as air, water, and land, in which people, animals, and plants live), the real world of food, agriculture and environment in Asia makes people find many kinds of diversity. The course is a series of intensive lectures, given in English by visiting professors from Asia and Oceania regions, for the participants to acquire multiple viewpoints for tackling the problems of food, agriculture and environment against the reality at the local as well as global scales.



Many study trips are guided by the ASNET staff in collaboration with visiting professors from Asia and Oceania regions (Project site surrounding Yezin Agricultural University in Myanmar on July, 2017).



●担当教員:川島 真(大学院総合文化研究科)

●科目名:書き直される中国近現代史XI

現在、中国は目覚しい変化を遂げています。それを肯定的に見るにせよ、批判的に見るにせよ、しっかりとしたデー 夕や分析枠組みの下に議論をしなければならないことはいうまでもありません。この授業では、その変容の中にあ



2017年度の授業風景。ASNETの講義としていち早く学部生にも受 講できるようにし、毎年数十名の学部生、大学院生が受講しています。

る中国の近現代史を見つめ直し、現在の中国を歴史的な軸 から捉えなおす視座を、さまざまな観点について養うこと を目指します。

今年は第十一回目にあたりますが、「近現代中国の秩序 観:国家・社会・経済・国際関係」として、中国において 歴史的に想定されてきた秩序とは何であったのかという ことを、多様な観点から、考察することを目指します。

●担当教員:河原ノリエ(情報学環)

科目名:アジアでがんを生き延びる

一あなたは あなたや大切なひとが 癌になったとき 癌医療を支えるどんな社会のしくみがあったらいいとおもいますか?―

アジアにおいては感染症の克服とともに癌が、急増しています。これほど までにこの重篤な病にさらされた時代はありません。医療格差も大きく、国 ごとの社会保障制度もまちまちなアジアにおいて癌は今日的課題を映し出す 鏡です。

持続可能な開発目標(SDGs)として、全てのひとが保健医療 サービスを経済的困難を伴わずに享受できる Universal Health Coverage の推進を目指す様々な政策イニシアチブが立ち上がっ ています。授業においては、こうしたアジアの現状と課題を踏 まえ、C/Can 2025 という国際癌連携のイニシアチブのフレー ムに沿ってステークホルダーから具体的な事例について学び、 提案書をつくっていきます。社会課題に対応したイノベーショ ンの創出が問われる時代において、これまで専門的な分野の中 でしか捉えられていなかった課題を様々な領域から学ぶことで、 自らの学問の相対化にもつなげてください。

アジアの未来はあなたの未来です。

専門領域を超えたあなたの智慧で、一緒に考えてみませんか?





Contents

目 次

分野	科目名	担当教員	学期	ウェブページ	ページ
75 25	アジアの法とマイノリティ(地域文化研究特別講義Ⅱ)	徐行・後藤絵美	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4090	P.08
	アジアのフィールドワーク論(地域文化研究特殊研究Ⅲ)	後藤絵美・徐行	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4091	P.08
-	●アジアでがんを生き延びる(地域文化研究特別講義II)	赤座英之・河原ノリエ	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4092	P.09
	●ヴァナキュラー文化研究の射程(通文化研究基礎論 I)	で 世豊	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4093	P.09
-	・中東の社会変容(通文化研究基礎論 1)	長澤榮治	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4094	P.10
	●途上国農村経済論(アジア太平洋地域文化演習Ⅱ)	髙橋昭雄	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4095	P.10
総論	人間環境論Ⅱ	永田淳嗣	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4096	P.11
論	●多文化共生·統合人間学演習 III	園田茂人	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4099	P.11
	朝鮮半島を取り巻く国際関係と韓国外交(多元世界解析演習Ⅱ)	木宮正史	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4098	P.12
	●書き直される中国近現代史XI(国際社会科学特別講義IV)	川島真	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4100	P.12
	サスティナビリティの戦略Ⅱ	永田淳嗣	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4101	P.13
	●戦後日本の民族関係(アジア太平洋地域文化演習Ⅱ)	外村大	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4102	P.13
	現代イスラームの潮流(地域文化研究特殊研究Ⅲ)	後藤絵美	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4103	P.13
オナ	●社会比較論(韓国朝鮮言語社会特殊研究)	本田洋	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4104	P.14
社会・	韓国の社会人類学(韓国朝鮮言語社会特殊研究)	本田洋	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4105	P.14
	● イスラム美術研究 (1)	桝屋友子	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4107	P.15
文化論	●イスラム美術研究 (2)	桝屋友子	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4108	P.15
盐	社会基盤イノベーション E Innovations in Civil Engineering	小松崎俊作	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4109	P.16
	■国際プロジェクトのケーススタディ E Case Studies of International Project	加藤浩徳	S2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4110	P.16
	●アジアの食と農・環境(農学国際特論Ⅲ)	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4111	P.17
	●国際農業と文化ゼミナール	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4112	P.17
自	■国際農業と文化実習	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4113	P.17
自然環境論	●農業収穫後管理と国際協力	山路永司・荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4114	P.18
境	●サスティナビリティ学特論(食料生産生態学特別講義)	鴨下顕彦	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4115	P.18
Film	●緑地創成学特論	大黒俊哉・橋本禅	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4116	P.19
	●農業からみたアジア史(農業史特論 V · Ⅵ · Ⅶ · Ⅷ)	松本武祝·戸石七生	S/A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4117	P.19
	●国際地域保健学特論Ⅰ	神馬征峰	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4118	P.20
	●人類生態学特論Ⅰ	梅﨑昌裕	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4119	P.20
	●医療コミュニケーション学講義	木内貴弘・石川ひろの	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4120	P.21
健	●医療コミュニケーション学演習	木内貴弘・石川ひろの・岡田昌史	S2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4121	P.22
健康論	●精神保健学特論Ⅰ	川上憲人	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4122	P.22
	●精神保健学特論Ⅱ	川上憲人	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4123	P.23
	●健康社会学	橋本英樹	A1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4124	P.23
	●健康教育学	橋本英樹	A2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4125	P.24
	International Conflict Study (ITASIA124)	FUJIWARA Kiichi	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4126	P.24
	Modern Japanese Diplomacy (ITASIA131)	KOHARA Masahiro	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4127	P.25
情報論	Introduction to Asian Studies (ITASIA101)	MATSUDA Yasuhiro	A1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4128	P.25
論	Surviving Cancer in Asia (ITASIA128)	AKAZA Hideyuki	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4129	P.26
	Japanese Foreign Economic Policy (ITASIA133)	IIDA Keisuke	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4130	P.26
	●文化·人間情報学特論 I	真鍋祐子	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4131	P.27
特論	●中国経済	丸川知雄・伊藤亜聖	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4132	P.27
	●東アジア産業論(国際経済特論)	丸川知雄・伊藤亜聖	Α	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/4133	P.28
教養	●地域文化論Ⅰ (日本・アジア学概論:国際社会で活躍する基盤を身に付ける)	ASNET 関連教員	S	https://asnet-utokyo.jp/education/under-graduate	P.31



アジアの法とマイノリティ ~地域文化研究特別講義Ⅱ~

Laws and Minorities in Asia

31M220-1328S 31D220-1328S Japanese 徐行(東文研·ASNET)·後藤絵美(ASNET) 駒場キャンパス 8 号館 205 Xing Xu (IASA, ASNET), Emi Goto (ASNET) Room 205, Bldg 8, Komaba Campus S semester 月 (Mon) 2限 (10:25-12:10) 受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回が

本講義はマイノリティを少数派という広い意味でとらえて、近代国家の法がいかなる形でそれと向き合っているのかを検討する。 一般的にはマイノリティを作り出し、それに対する差別を容認・助長する方向で作用する法が存在する一方、差別を是正し、マイノリティを優遇する方向で機能する法も存在する。特に後者の場合、積極的な優遇措置は法の下の平等に反し、逆にマジョリティに対する差別をもたらすと批判されているように、マイノリティに関わる法の諸問題は社会的多数派とも密接に関係しており、社会全体の問題として考える必要がある。 本講義は性的小教者や宣教的小教者といったメランフである。

本講義は性的少数者や宗教的少数者といったメディアでもフォーカスされているマイノリティのほかに、「単一民族国家」と見なされている日本ではあまり注目されていない少数民族や政治的少数者といった「マイナー」なマイノリティをも取り上げて、ア ジア諸国ないし世界各国との比較を通じて日本の現状に対する理解を深める。

4月16日 文献講読 ①

鈴木賢「東アジアにおける性的マイノリティに関する法制について:台湾におけるモデルチェンジを中心に」 4月23日

5月 7日 文献講読 ②

14日 戸谷義治「職場におけるマイノリティとは誰か? 労働法政策におけるメインターゲットとその周辺」

5月21日 文献講読 ③

5月28日 落合研一「グローバルな先住民族概念と日本のアイヌ民族」

4日 文献講読 ④

-「マイノリティをマジョリティにする動き? 現代のイスラーム法とハラール」

6月18日 文献講読 ⑤

6月25日 児玉弘「大規模公共事業をめぐる行政過程と裁判:玄海原発再稼働と諫早湾干拓事業を素材に考える」

2日 文献講読 ⑥

7 月 9 🗏 徐行「司法はマイノリティを守る最後の砦たりうるのか?」

詳しい情報はこちらで■



単位/2 Credit:2

アジアのフィールドワーク論―「法と社会」編 ~地域文化研究特殊研究Ⅲ~

Fieldworks in Asia

31M220-1355S 31D220-1355S

日本語

後藤絵美 (ASNET)・徐行(東文研・ASNET)・

Iapanese

荒木徹也 (農学生命科学) Emi Goto (ASNET), Xing Xu (IASA, ASNET), Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)

本郷キャンパス 東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus

担当教員 Teacher

S semester 水 (Wed) 4限 (14:55-16:40)

多様な学問分野・対象地域を専門とするアジア研究者や実務者の経験や議論を参照しつつ、フィールドワークについて学ぶ。今年度は、前半にフィールドワークの方法論を学ぶと共に、日本のハラール産業(ムスリムの宗教法に基づくとされる産業)に関する調査と報告を行う。後半には、「法と社会」をキーワードに、国内およびアジアの法の多様な局面について学ぶ。

イントロダクション フィールドワークの方法論 1 第2回 (4/18)情報の集め方 後藤絵美 (東京大学)

フィールドワークの方法論 2フィールドワークの方法論 3 視点の定め方、対話の技法 池亀彩(東京大学) 視点の定め方、対話の技法 竹村和朗(AA 研) 第3回 (4/25)

(5/9) 第4回

フィールドワークの方法論 4 調査準備 フィールドワークの方法論 5 調査報告 (5/16) 第5回 調査準備

(5/23)第6回

第7回 (5/29)補講日

第8回 (6/6)

アジアの法と社会 1 戸谷義治 (琉球大学) アジアの法と社会 2 児玉弘 (佐賀大学) アジアの法と社会 3 徐行 (東京大学) (6/13)第9回

(6/20) (6/27) (7/4) 第10回

第11回

実習(裁判傍聴)実習(台湾実習に向けて) 第12回

第13回 (7/11) まとめ

受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。 受講生は9月のASNET 台湾スタディツアー(JASSOによる旅費支援制度有り)に優先的に参加することができる。スタディツアー の参加は選択によるもので、参加の有無は単位習得に影響はない。



アジアでがんを生き延びる ~地域文化研究特殊研究Ⅱ~

Surviving Cancer in Asia

4990180 31M220-1344S 31D220-1344S Japanese 赤座英之(情報学環)・河原ノリエ(情報学環) 医学部教育研究棟 第1セミナー室他 Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies) Hongo Campus S semester 金 (Mon) 4 限 (14:55-16:40) 冬学期に本授業と連動した授業を開講予定 ITASIA128 Surviving Cancer in Asia

がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれなど、 アジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることで、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする学際連携プログラム「Cross-boundary Cancer Studies」の一 環として位置づけられている。

専門分野以外の学びを通して、自分の学びを相対化する機会であり、社会課題に対応したイノベーションの創出が問われる今、 次世代の文理融合人材の開発を目指す講義であり、ここで受講生は、アジア社会におけるがんの現状と課題と、UHC という政策概念の意味を C/Can 2025 というイニシアチブのフレームのステークホルダーから具体的な事例について学ぶ。 講師:波平恵美子(お茶の水女子大学)小木曽麻里(笹川平和財団)布施達朗(セコム医療システム)赤座英之・河原ノリエ

4/6 持続可能な社会を目指して、アジアでがんを生き延びる

4/13 いのちの選択 -家族の癌治療のために全財産をつぎこめますか?

4/27 社会的インパクト投資がもたらすもの

社会課題とステークホルダーをいかに繋げていくか?

行政はなにができるのか? 5/11

他 (詳細は www.siccn.org)

5/18 なぜ癌に国家戦略が必要なのか?

5/25 アジアでがんの病院をつくるということ

6/ 1 高齢化するアジアの未来とがん一多死社会を生き延びるために

6/8 開発課題としての癌から地域のなにがみえるのか?

6/22 がんを社会のなかで位置付ける意味?

6/29 癌患者のデータからみたアジアの癌治療

7/6 癌医療と病院

7/13 グローバルな課題に製薬企業はなにができるのか

7/20 学生発表

詳しい情報はこちらで⇒



単位/2 Credit:2

ヴァナキュラー文化研究の射程―ヴァナキュラー芸術の世界 ~通文化研究基礎論 1~

31M220-1131S 日本語 31D220-1131S **Tapanese** 菅豊 (東洋文化研究所) 本郷キャンパス 東洋文化研究所 705 室 Yutaka Suga (IASA) Room 705, Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus

S semester 水 (Wed) 4限 (14:55-16:40)

ヴァナキュラー(vernacular)とは、元来、土地固有の土着的な地方語、話し言葉、日常語を形容する言葉として使用されていたが、 ここ数十年のあいだ、種々の人文・社会科学ではその語義を拡大し、文化論におけるより魅力ある現代的キーワードとして発展させてきている。その語には、普遍に対する土着、中央に対する地方、権力に対する反権力、権威に対する反権威、正統に対する異端、フォーマルに対するインフォーマル、パブリックに対するプライベート、プロフェッショナルに対するアマチュア、高踏に対 マジョリティに対するマイノリティ、市場に対する反市場、非日常に対する日常、仕事 する世俗、エリートに対する非エリート、 に対する趣味、他律に対する自立、洗練に対する野卑、教育に対する独学などなど 実に多様な含意を込めることが可能である。 この語を文化に冠することにより、多様な文化のなかから括り取られる「ヴァナキュラー文化(vernacular culture)」は、社会の表舞台に登場し、すべての人びとから称賛される文化では必ずしもないが、社会のどこかの舞台には必ず登場し、特定の人びと から特別な熱意をもって執着される文化である。それは諸局面で正統な文化の対概念として、ときに対立性から語られ、またとき

に対称性から語られうるが、同時に表裏一体の交渉性も保持される文化である。 本授業では、そのようなヴァナキュラー文化のなかのヴァナキュラー芸術(vernacular arts)を題材にして、ヴァナキュラーな 学問ともいえる民俗学におけるヴァナキュラー文化研究の対象領域、方法、視点、そして意義などについて一緒に考えてみたい。

初回開講は4月11日(水)4限14:55の予定。授業は本郷キャンパス・東京大学東洋文化研究所7階705号室で開講する。





中東の社会変容 ~通文化研究基礎論 I ~

31M220-1130S 日本語 31D220-1130S Japanese 長澤榮治 (東文研) 本郷キャンパス 東洋文化研究所 804 室 Eiji Nagasawa (IASA) Room 804, Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus S semester 水 (Wed) 3限 (13:00-14:45)

受業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

中東の社会変容に関する考察を通じて、同地域が直面する様々な問題に対する客観的な分析を可能にする方法論的態度を学ぶ。

中東諸国の経済発展と政治変動、およびそれに伴う文化社会変容をめぐる諸問題を多面的に考察する。今年度は近代国家・イスラー ム・法・ジェンダーについて議論をする。

第一回 オリエンテーション 第二回以降 文献講読

詳しい情報はこちらで■



単位/2 Credit:2

途上国農村経済論 ~アジア太平洋地域文化演習 !! ~

科目番号 291323	使用言語	日本語
Course ID Number 31M220-1003S 31D220-1003S	Language	Japanese
担当教員	場 所	本郷キャンパス 東洋文化研究所 606 室
Teacher	Venue	Room 606, Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 S semester 火 (Tue) 4限 (14:55-16	:40)	

発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、 労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのようなイシューに重点をおくかについては参加 者と協議のうえ決定する。

覆修上の注意 Notes on Taking th Course

授業のテキストは、ゼミに参加する学生の専攻や意向を参考にして、最初の授業の日に決める。



人間環境論 II

Human Geography II

31M282-0620S 31D282-0620S

Japanese

永田淳嗣(総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)

駒場キャンパス 2 号館 202 室 Room 202, Bldg no.2, Komaba Campus

S semester 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)

現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講 者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。

主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持 つものに受講を限る。

詳しい情報はこちらで



単位/2 Credit:2

多文化共生·統合人間学演習Ⅲ Japan in Hong kong: HKU-U Tokyo Joint Summer Program 2018

31M370-0220S 31D370-0220S

英語 English

担 当 教 員

園田茂人 (東洋文化研究所)

Shigeto Sonoda (Institute for Advanced Studies on Asia)

香港大学 University of Hong Kong

集中講義 intensive (S semester)

This course is for those who want to understand Asia and Japan through the lens of Hong Kong by participating in joint summer program specially tailored to students of University of Tokyo and the University of Hong Kong in August, 2018. The content of the program has not been finalized yet, but international office at the University of Tokyo will start to announce call for participation in summer program in mid-April through the website, when you can get the whole information including schedule, concrete activities, lodging, transportation, and participation fee. Two credits will be offered to those who participate in the program. (http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/program/program.html)

The program will be consisted of lectures, fieldtrips, and presentations. The topics in the program will include (1) Historical Perspectives of Hong Kong, (2) Japanese Businesses in Hong Kong, and (3) Hong Kong in a Global Context. Participants will listen to the lectures delivered by professors in the University of Hong Kong, and then you will participate in the fieldwork/fieldtrip. Participants in the program will form groups, each of which will make presentation on its research findings on the last day of the program. Graduate students as well as undergraduate students (capacity: 15 students from each university) will join the program and the former will be expected to function as a leader of each group.

You need to apply for the call for participation in the summer program made by the International Office in the University of Tokyo. Those who are selected will be automatically registered in this class. You don't have to register in order to apply for this course.





朝鮮半島を取り巻く国際関係と韓国外交 〜タ元世界解析演習エエ〜

31M220-0142S 31D220-0142S

Japanese

木宮正史 (総合文化研究科) Tadashi Kimiya (Liberal Arts and Sciences)

駒場キャンパス 11 号館 1105 Room 1105, Bldg.11, Komaba Campus

S semester 火 (Tue) 2限 (10:25-12:10)

朝鮮半島を取り巻く国際関係の中で韓国外交がどのように展開されてきたのかを中長期的な歴史的視野の中で考察する。以下の研 究書籍を読み進めながら理解を深める。

- · Yoshikazu Sakamoto, Korea as a World Order Issue, Routledge, 1978
- ・木宮正史『ナショナリズムから見た韓国・北朝鮮近現代史』講談社、2018年
- · Scot A. Snyder, South Korea at the Crossroads: Autonomy and Alliance in an Era of
- · Rival Powers (Council on Foreign Relations), Columbia University Press, 2018

授業に積極的に参加し、発言することが求められる。

詳しい情報はこちらで⇒



単位/2

書き直される中国近現代史XI ~国際社会科学特別講義IV~

08X000304 08C321615 使用言語 日本語 31M230-1140A 31D230-1140A Japanese 川島真 (総合文化研究科) 駒場キャンパス 担当教員 Shin Kawashima (Art and Sciences) Komaba Campus 詳細は、東京大学現代中国研究拠点(社会科学研究所) A semester 木 (Thu) 5 限 (16:50-18:35) ウェブサイトを参照されたい (http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/)。

第11回 書き直される中国近現代史 「近現代中国の秩序観:国家・社会・経済・国際関係」

この講義は、2018 年度で第 11 回目を迎える。第一年度(2008 年度)は人物評価を、第二年度(2009 年度)は事件・運動を、第三年度(2010 年度)はローカルな空間や社会集団を基軸に講義を組み立て、第四年度(2011 年度)は史料・資料に焦点を当て、第五年度(2012 年度)は主に若手研究者をゲストに招き、その視線から見た新しい研究動向を扱い、第六年度(2013 年度)は昨今進展著しい戦後東アジア国際政治史、東アジア冷戦史について、第七年度は日中戦争史について多様な角度から検討し、第八年度は「中国史の境界線ー異質・多元・包摂ー」として中国史の多様な語り方を考察し、第九回は「現代中国理解講座:現代中国への視線ー歴史の視座と多様性ー」として、政治、法律、行政、外交、経済、社会、思想文化などの多様な面から現代中国を論じ、第十回は「近現代日中関係史:歴史・記憶・展望」として、多様な近現代日中関係史に対する新たな研究についての講義をおこなった。これらの内容は、東京大学現代中国研究拠点(社会科学研究所)ウェブサイトに掲載されている(http://web.iss.utdvo.ac.in/kyoten/) iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/)。

iss.ti-tokyo.ac.jp/kyoten//。 今年は第十一回目にあたるが、「近現代中国の秩序観:国家・社会・経済・国際関係」として、これからの中国が構築していくであろう様々な場や分野での秩序について歴史的に考察する。 授業はさまざまな世代の第一線の研究者によるオムニバス講義とする。

授業時間は木曜日 5 限、評価は出席と学期末のレポートによる。

(以下は予定、変更されることがあります)

9月27日 (木) 岸本美緒(お茶の水女子大学)「近世中国の秩序観」 第2回 10月 4日 (木) 杉山清彦 (東京大学) 「満洲族の世界観、秩序感」 茂木敏夫(東京女子大学)「19世紀中国から見た天下と国家」 村田雄二郎(同志社大学)「中国から見た大アジア主義」 11日 第4回 10月18日 10月25日 深町英夫(中央大学)「孫文の考える国家秩序・世界秩序」 第5回 (木) 州島真(東京大学)「近代中国の職業外交官のみる世界と秩序」 久保亨(信州大学)「中国から見た社会主義」 伊藤亜聖(東京大学)「中国経済における秩序像」 松田康博(東京大学)「一つの中国/二つの中国/一中・一台論」 高見澤曆(東京大学)「近現代中国における法と秩序」 第6回 11月 1日 (木) 11月 15日 (木) 第7回 第8回 11月29日 (木) 第9回 12月 6 ⊟ (木) 第10回 12月13日 (木) 12月20日12月27日 第11回 (木) 青山瑠妙(早稲田大学)「現代中国外交にみる秩序観」 (木) 第12回 予備日 第13回 1月10日 阿古智子(東京大学) 「現代中国の社会秩序」



サスティナビリティの戦略 II

Sustainability Strategy II

31M290-0180A 31D290-0180A

Japanese

永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)

未定

A semester 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)

現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講 者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。

主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持 つものに受講を限る。

詳しい情報はこちらで→



単位/2 Credit:2

戦後日本の民族関係 ~アジア太平洋地域文化演習Ⅱ~

31M220-1001A 31D220-1001A

日本語 Japanese

外村大 (総合文化研究科) Masaru Tonomura (Art and Sciences)

未定

A semester 他未定

主に朝鮮戦争前後の時期について、日本社会のマジョリティである日本人とそれ以外のエスニックマイノリティ、とりわけ在日朝 鮮人との関係に関わる史料を読んでいく。それを通じて、日本社会の特徴、その後の日本社会に与えた影響、それ以前の民族関係 のあり方との連続と断絶などについて討論し、考えていく。

最初の 2 回は、授業参加者の問題関心を踏まえて共通認識、この時期を把握するための前提として、日本戦後史、日本占領につ いての概説と研究状況の整理を行うとともに、具体的に読むべき史料について議論する。

それを踏まえて、第3回以降は、史料の読解を進めていく。具体的に読解していく史料としては、特審局の刊行物や、GHQ文書 中の在日朝鮮人の文書、プランゲ文庫中のエスニックマイノリティが関係する雑誌や新聞、関係団体の機関誌等である。

朝鮮語の文献を扱うこともあるが、朝鮮語理解者のみに受講者を限定するわけではない。ただし、朝鮮語の読解が困難であるが受 講を希望する者については事前に教員と連絡をとること。

詳しい情報はこちらで⇒



単位/2 Credit:2

現代イスラームの潮流 ~地域文化研究特殊研究Ⅲ~

31M220-1355A 31D220-1355A

日本語 Japanese

後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET)

本郷キャンパス 東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus

A semester 月 (Mon) 2限 (10:25-12:10)

受講生には課題発表および小レポートを課す回がある。

受業の目標・概要 Course Objectives, Overview

本講義では、現代世界における「イスラーム勢力」およびそれ以外のイスラームの潮流の全体像を把握し、それを歴史的文脈の中 に位置づけることを目指す。その際、主にエジプトを事例に、イスラームの潮流について、いくつかの分類のされかたを眺めてい く。その作業を通して、中東地域でのこれまでの動きや今後の動きを見る際の視覚を培っていきたい。

- 1. メディアにうつる「イスラーム」 2.「イスラーム」とは何か
- 3. イスラーム潮流の類型化
- 4. 受講生による報告





社会比較論 ~韓国朝鮮言語社会特殊研究~

21186504 日本語 Japanese 本郷キャンパス 赤門総合研究棟 723 演習室 本田洋 (人文) Hiroshi Honda (Humanities and Sociology) Seminar Room 723, Akamon General Bldg, Hongo Campus S semester 水 (Wed) 4限 (14:55-16:40)

韓国朝鮮社会を対象とする民族誌的文献と関連文献の講読を通じ、社会人類学の視角と方法についての理解を深めるとともに、研究対象の同定・定義、問題設定、資料収集、分析・解釈といった、社会比較を念頭に置いた質的研究の基礎的な方法を学ぶ。 購読文献としては、韓国朝鮮社会の持続性と近代化・産業化・グローバル化の過程での社会経済的変化を扱ったモノグラフ、なら びに関連する理論的著作が主となる。

初回はガイダンスで、二回目から文献購読と研究発表に入る。文献講読と研究発表は、受講者の研究テーマと研究進捗状況を考慮 に入れて、実際の進め方を調整してゆく。

授業は演習形式で行う。講読する文献には一部、日本語のものも含まれるが、主体は韓国語と英語で書かれたものとなる。受講者 には、原則として韓国語の基礎的な読解能力が求められるが、英語文献の講読や討論への積極的な参加が可能であれば、必ずしも 韓国語が分からなくても受講を歓迎する。また、修士課程2年以上の受講者については、個人研究発表の機会も設ける。

詳しい情報はこちらで•



単位/2 Credit:2

韓国の社会人類学 ~韓国朝鮮言語社会特殊研究~

科目番号	21186506	使用言語	日本語
Course ID Number		Language	Japanese
担当教員	本田洋(人文)	場 所	本郷キャンパス 法文 1 号館 112 教室
Teacher	Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	Venue	Room 112, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授 業 時 間	S semester 火 (Mon) 5限 (16:50-18:35)		

1990 年代以降の韓国社会について、生き方の変化と持続性に焦点を合わせ、外からの視線と内からの視線を交錯させつつ、社会 人類学的・民族誌的理解を試みる。1990年代をひとつの画期として設定した理由は、第一に、担当教員自身による1980年代 後半以来のフィールドワーク経験とこの社会との関わりにある。1980年代末の都市生活の経験と農村・地域社会でのフィールド ワークを参照点にとることで、その後のこの社会の変化を経験的に、かつ内外の視線を交錯させつつ探求することが可能になると 考える。第二に、担当教員が直接の調査研究の対象としてきた農村・地域社会が、1990 年代以降、一方で行政主導の開発政策、 他方で市民運動の脈絡で再評価され、そこに新たな人の動きと社会経済的活動が生まれつつあるからである。1990年代初頭まで の産業化の過程で都市の反転像としての性格を強めていった農村社会が、このような社会経済的再編成の過程で、現代韓国社会の ひとつの縮図を体現するようになったといえるかもしれない。

この講義では、担当教員自身が収集した民族誌的資料と韓国社会を対象とした社会人類学的・民族誌的研究を対照させながら、コ ミュニティの創造と再生産、都市中産層の主流化と分化、農村と移住等の主題と関連付けつつ、現代韓国社会を生きる人たちの生 き方の変化・分化と持続性を探ってゆきたい。



イスラム美術研究(1)

科目番号 Course ID Number	21180405	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	桝屋友子(東洋文化研究所) Tomoko Masuya (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 赤門総合研究棟 738 Room 738, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time			
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview ていく。			
履修上の注意 Notes on Taking the Course			

詳しい情報はこちらで➡



イスラム美術研究 (2)

科目番号 Course ID Number 21180406	使用言語 日本語 Japanese
担 当 教 員 Teacher M屋友子(東洋文化研究所) Tomoko Masuya (IASA)	場所 本郷キャンパス 赤門総合研究棟 738 Room 738, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time A semester 金 (Fri) 2限 (10:25-12:10)	
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview 対していく。	のように絵画化しているかを、時代や地域の異なる個々の作例について検
履修上の注意 Notes on Taking the Course 免表する。評価は授業への参加状況(発表・発言など)、	ストが写本ごとにどのような絵画表現がなされているかについて分析し、 レポートによる。





社会基盤イノベーション E

Innovations in Civil Engineering

3713-120 英語 English 小松崎俊作 (工学系研究科) 本郷キャンパス 工学部 1 号館 17 号講義室 Shunsaku Komatsuzaki (Engineering) Room 17, Faculty of Engineering, Bldg. 1, Hongo Campus

S1 term 水 (Wed) 4限 (14:55 - 16:40)

事例分析とイノベーションワークショップの実践を通じて、社会的課題に対する解決策立案方法・能力を習得する。冒頭、問題構 造化手法とイノベーション教育手法について概説し、事例の分析を行った上で、イノベーションワークショップを実践する。

本講義では未受験を認めない。成績評価(出席30%、ショートレポート30%、ワークショップへの貢献40%)で50点を切る と不可となるので、注意して履修登録すること。

詳しい情報はこちらで⇒



国際プロジェクトのケーススタディ E

Case Studies of International Project

科目番号 Course ID Number	3713-118	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	加藤浩徳(工学系研究科) Hironori Kato (Engineering)	場 所 Venue	本郷キャンパス 工学部 1 号館 17 号講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg. 1, Hongo Campus
	S2 term 目 (Mon)·木 (Thu), 2限 (10:25-12:10)		

S2 term 月(Mon)· 木(Thu)、2 限(10:25-12:10)

国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・ 能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケース に関わる専門的知識を身につけることも求められる。

履修上の注意 Notes on Taking th Course

本講義では未受験を認めない。成績評価(出席 30%、各ケースで出されるショートレポート+議論への貢献 70%)で 50 点を切ると不可となるので、注意して履修登録すること。



アジアの食と農・環境 ~農学国際特論Ⅲ~

Food, agriculture and environment in Asia

3910180 English 荒木徹也 (農学生命科学研究科) 弥生キャンパス 農学部 7 号館 B 棟 7B-231/232 Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences) Faculty of Agriculture Bldg no.7B Lecture Room 231/232, Yayoi Campus 単位取得のためには年間4回(修士課程:農学国際特論Ⅲ) 集中講義 intensive (S1-W) 授業時間 年間5回の集中講義(4/21, 7/21, 10/27, 12/15, 2/4 または3年間で4回(博士課程:環境政策特別講義)の の土曜日の 10:00-17:00 に実施) 出席が必要である。

1. Purpose: To acquire plural viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment in accordance with the reality in the local context as well as global viewpoints.

Contents: Five intensive lectures will be held.

- (1) April 21, 2018: (Lecturer) Prof. Hsueh-Jung Lu (National Taiwan Ocean University, Taiwan)
- (2) July 21, 2018: (Lecturer) Prof. Anak Agung Ayu Mirah Adi (Udayana University, Indonesia)
- (3) October 27, 2018: (Lecturer) Dr. Arief Darmawan (Lampung University, Indonesia) (4) December 15, 2018: (Lecturer) Henrik Österblom (Stockholm University, Sweden)
- (5) February 4, 2019: (Lecturer) Henrik Österblom (Stockholm University, Sweden)
- Coordinators: Nobuyuki Yagi (1,4,5), Yasunobu Matsumoto (2), Satoshi Tsuyuki (3) Coordinator: Tetsuya Araki (荒木徹也), Kensuke Okada (岡田謙介), Nobuyuki Yagi(八木信行), Yasunobu Matsumoto(松本安喜), Satoshi Tsuyuki (露木聡)

詳しい情報はこちらで■



単位/2

国際農業と文化ゼミナール

科目番号	3912143	使用言語	日本語
Course ID Number		Language	Japanese
担当教員	荒木徹也(農学生命科学研究科)	場 所	弥生キャンパス 農学部 7 号館 B 棟 7B-231/232
Teacher	Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)	Venue	Faculty of Agriculture Bldg no.7B Lecture Room 231/232, Yayoi Campus
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (S) 3日間連続の集中講義 (2018年6月13日(水)~15日(金))	履修上の注意 Notes on Taking the Course	
授業の目標・概要	目標:アジアの農業について、さまざまな農学に関わるが た視点から論じる。アジアの農業について、単一の専門分		、「環境と農業」「農業と資源」「経済と食品流通」といっ ではなく、俯瞰的に考える能力を身につけることを目指す。

概要:スライドおよび資料による講義形式。各日の最後に総合討論を行う。

詳しい情報はこちらで=



国際農業と文化実習

科目番号	3912144	使用言語	日本語
Course ID Numbe		Language	Japanese
担当教員	荒木徹也(農学生命科学研究科)	場 所	未定
Teacher	Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)	Venue	
755 WK 0+ 00	集中講義 intensive (S)		

国内実習が数回(4月から8月、日時は未定)、フィリピンで海外実習が10日間(2018年8月23日(木)~9月1日(土))

目標:国際農業と文化ゼミナールで得た知識や考え方を実際の現場に適用するために、アジア途上国での研修により、地域における問題の把握、それらの問題解決のためのプロジェクト形成について経験を積む。国内および海外の現場での基礎的な調査能力を 身につけることを目指す。

概要:日本の農村での実習を、4月から8月(日程未定)におこなったうえで、フィリピンで10日間の海外実習(2018年8 月23日(木)~9月1日(土))を行う。帰国後、レポートを作成し発表会を行う。

履修学生の上限を20名とする。海外実習の参加申し込み者に対する事前面接を実施する。





農業収穫後管理と国際協力

47190-06 Japanese 山路永司(新領域創成科学研究科)、荒木徹也(農学生命科学研究科) 弥生キャンパス 農学部 7 号館 A 棟 7A-717 Eiji Yamaji (Graduate School of Frontier Sciences), Faculty of Agriculture Bldg no.7A Lecture Room 717, Yayoi Campus Tetsuya Araki (Graduate School of Agricultural and Life Sciences) 研究所等の見学を含む場合もある。 集中講義 intensive (W) (木曜3限から5限の時間帯に実施) 出席とレポートにより評価する。

目標:アジアの農産物生産と収穫後の加工に関わる技術を理解し、問題点の把握と解決策並びに技術協力の在り方についての考察 を深める。国際協力プロジェクトのファシリテーション手法の習得を目指す。

概要:配布する資料を基に、収穫後ロスや過去の ODA プロジェクト及び国際協力について概観し、それらについて受講者から問 題点の提起を求め、議論を通して改善の方向を探る。

詳しい情報はこちらで



単位/ 2

サスティナビリティ学特論 ~食料生産生態学特別講義~

Sustainability Science Special Course - Food Production Ecology Special Lecture -

3910343

英語 English

担当教員

鴨下顕彦(アジア生物資源環境研究センター) Akihiko Kamoshita (ANESC)

西東京キャンパス (B 棟 23 室)・ 弥生キャンパス (7 号館 B 棟 435 室) Nishitokyo Campus (B-23), Yayoi Campus (7B-435)

授業時間 Semester/Time

集中講義 intensive (A1-SP)

10-12 月数回 several days in Oct to Dec

持続可能な開発、平和構築のために、作物生産学はどのような貢献ができるのだろうか?世界の稲作の多様性や技術的な課題について学び、ステークホルダー解析などの参加型演習を交えながら、持続可能な開発と食料生産の関連性を主体的に考えながら学ぶ。 途上国を含む世界の作物生産に関する基礎知識や複眼的な見方を習得する。

What can crop production science contribute to sustainable development and peace-making? Based on the basic and advanced learning of diversity of rice ecosystem and challenges for rice production technology, learn and discuss relationship between food production and sustainable development, including participatory practice such as stakeholder analysis. Students should aim to demonstrate basic knowledge and multiple viewpoints about world crop production including developing countries.

- 持続可能な農業と稲生態系
- ユニット2 ユニット3 緑の革命とその後の稲作技術開発 天水農業とステークホルダー解析
- ユニット4 気象変動とデルタ地域の稲作
- ユニット5 作物のストレス耐性の改良
- ユニット6 バイオテクノロジーと参加型開発
- ユニット7 科学者の役割と持続可能な開発・平和構築
- Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem
- Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development
- Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis
- Unit 4 Climate change and delta rice production
- Unit 5 Improvement of crop stress resistance
- Unit 6 Biotechnology and participatory development
- Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development/peace-making

UTAS にメールアドレスを登録し、akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp へメールを送ること。事前テストを送るので、第 1 回講 義までに回答すること。

Register your mail address in UTAS, and e-mail to akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp. Pre-test is to be sent to the registered students, and it is to be answered before the first lecture.



緑地創成学特論

3911109

Japanese

大黒俊哉 (農学生命科学研究科)、 橋本禅 (農学生命科学研究科) Toshiya Okuro (Agricultural and Life Sciences), Shizuka Hashimoto (Agricultural and Life Sciences)

未定

集中講義 intensive (通年)

受業の目標・概要

いわゆる「里山」に代表される持続的な地域資源利用・生態系管理システム(社会生態生産ランドスケープ)について、自然科学 的・人文社会学的側面からその変遷と現状についての理解を深めるとともに、21世紀の自然共生社会を支える自然・社会システ ムを国際社会に発信するための基礎的能力を習得する。

2) 授業の概要

1) 授業の目標

本講義では、生態系サービス、生物多様性、資源・エネルギー、科学・政策インターフェース、等をキーワードに、緑地環境学、ランドスケープ・プランニング、社会学、人類生態学など、多様な学問領域から社会生態生産ランドスケープをとらえ、文理融合アプローチによりそれらを体系化していきます。講義では、知識の習得にとどまらず、ディスカッションやグループワークなど、 アクティブラーニングの手法を取り入れ、能動的な参加を求めます。

出席、議論への参加状況およびレポートにより評価します。

詳しい情報はこちらで⇒



分野/自然環境論(農学生命科学研究科) Field : Natural Environment

単位/各 1 Credit: 1

農業からみたアジア史 ~農業史特論Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ~

History of Agriculture V · VI · VII · VIII

3905192 3905193 3905194

3905195

日本語 Japanese

松本武祝(農学生命科学研究科)、 戸石七生(農学生命科学研究科)

Takenori Matsumoto (Graduate School of Agricultural and Life Sciences), Nanami Toishi (Graduate School of Agricultural and Life Sciences)

弥生キャンパス 農学部 1 号館 309-1 Faculty of Agriculture Bld. No1, 309-1, Yayoi Campus

S1S2, A1A2 金 (Fri) 3限 (13:00-14:45)

日本・インドを中心としたアジアの歴史を、農業を尺度に長期的な視野から理解することを目的とする。その際、比較史的アプロー チを用いる。

S1S2 セメスターは篠田隆『インド農村の家畜経済長期変動分析』日本評論社 2015、石川博樹・小松かおり・藤本武『食と農の アフリカ史』昭和堂 2016 他の文献を輪読する。

履修の際の専門性は問わないが、日本史や世界史一般については高校の教科書程度の知識があることを前提とする。また、農業経 済学や農業史の基礎的なテキスト(『農業経済学』岩波書店、暉峻衆三編『日本の農業 150 年:1850 ~ 2000 年』有斐閣、原 田信男『日本人はなにを食べてきたか』角川書店)を予習しておくことを薦める。







国際地域保健学特論亅

Special Lecture in Community Health I

41822121 英語 English 神馬征峰(医学系研究科) 本郷キャンパス 医学部3号館S101(変更の可能性あり) Masamine Jimba (Medicine) Medical Bilding 3, S101 (Subject to change), Hongo Campus

S1 term, 金 (Fri), 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)

受業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

本特論では、参加者はコミュニティに着目したグローバルヘルスの基礎となる重要な概念を理解した後に、研究および実践におけ る方法論について学んでいく。

1. Key concepts of community health action

- a. Health, community, and global health
- b. Community development and sustainability
- Primary health care
- d. Health promotion
- e. Positive deviance approach
- f. Health behaviors and community-based participatory research
- Community health workers
- h. Human rights

2. Tools for community health action and research

- a. Qualitative research methods
- b. Community health assessment
- c. Hard-to-reach population research methods
- d. Medical anthropology
- e. Dissemination research

授業開始日は4月13日(金)

受講希望者は事前に柴沼助教 shibanuma@m.u-tokyo.ac.jp へ連絡して下さい。

詳しい情報はこちらで



単位/2 Credit:2

人類生態学特論Ⅰ

Human Ecology I

41822231 英語 English 梅﨑昌裕 (医学系研究科) 本郷キャンパス 医学部 3 号館別棟 6 階 E604 Masahiro Umezaki (International Health) Medical Building 3 Annex, E604, Hongo Campus

S1 term, 金 (Fri), 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)



The primary goal of Human Ecology is to describe the interactions between human populations and their environments, and analyze them in terms of adaptation.

April 13 Orientation (10:00-12:00) Prof Umezaki and Dr Shoko Konishi

April 20 Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki

"Anthropological Perspectives on Health and Disease " "Healers and Healing"

"Diet and Nutrition in Health and Disease"

Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki

"Child Growth and Health" "Reproductive Health in Biocultural Context" "Aging" Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki

May 11 "Infectious Diseases: Pathogens, Hosts, and Evolutionary Interplay"

"Globalization, Poverty, and Infectious Disease" May 18 Lecture (9:00-12:00) Dr Konishi

"Sustainability and Health" "Environmental and Occupational Epidemiology" May 25 Lecture (9:00-12:00) Dr Konishi

"Environmental Justice and Vulnerable Populations" "Energy and Human Health"

Special Lecture (9:00-12:00) Prof Kazuhiro Moji (Nagasaki Univ)

"Human Ecology, Ecohealth and Global Health"

Students are requested to read assigned papers before the lecture. Please check websites. Each student is in charge of making presentation of one or two chapters. Starting Date: April 13th (Fri)



医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

41818120

Japanese

木内貴弘(医学系研究科)・石川ひろの(医学系研究科) Kiuchi Takahiro (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)

本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus

S1 term, 火 (Tue), 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)

本講義の目的は、医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の理論と実践を体系的に学習することにある。 医療コミュニケーション学(ヘルスコミュニケーション学)とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であ り、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュ ニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的 な知識を得ることができる。

4月10日3限	医療コミュニケーション学概論	木内貴弘
4月10日4限	ヘルスコミュニケーションの研究	石川ひろの
4月17日3限	患者・市民の教育:賢い患者・市民を育てる取り組み	山口育子(COML)
4月17日4限	ヘルスコミュニケーション:がん対策への実践と応用	高山智子(国立がん研究センター)
4月24日3限	政策形成とアドボカシーのコミュニケーション	神馬征峰(国際地域保健学)
4月24日4限	グループ・組織のコミュニケーション	石川ひろの
5月 8日3限	ヘルスコミュニケーションの方略①個人の行動変容	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
5月 8日4限	ヘルスコミュニケーションの方略②集団の行動変容	石川善樹(キャンサースキャン)
5月15日3限	メディアコミュニケーション①:新聞	本田麻由美 (読売新聞)
5月15日4限	ヘルスコミュニケーションの方略③保健医療文書	奥原剛
5月22日3限	メディアコミュニケーション②:テレビ	市川衛(NHK)
5月22日4限	ヘルスコミュニケーションの方略④ エンターテイメント・エデュケーション	加藤美生
5月29日3限	メディアコミュニケーション③:インターネット	中山和弘(聖路加国際大学)
5月29日4限	まとめ: グループ討論と総合討論	加藤美生、奥原剛

医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、医学研究と CDISC 標準、等と関連する。





医療コミュニケーション学演習

Health Communication Practice Training

41818122

日本語 Japanese

木内貴弘(医)・石川ひろの(医)・岡田昌史(医) Kiuchi Takahiro (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine), Masafumi Okada (Medicine)

本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus

S2 term, 水 (Wed), 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)

月日	内容	担当
6月 6日 (水) 13:00-16:40	文書によるコミュニケーション 行動変容を促す保健医療文書を作る 注意:ノート PC 持参のこと	奥原剛
6月13日 (水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習(1) 注意:ノート PC 持参のこと	木内貴弘 岡田昌史
6月20日 (水) 13:00-16:40	メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習	渡邊清高 (帝京大学)
6月27日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)演習(1)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
7月 4日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習(2)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
7月11日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習(3)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
7月18日 (水) 13:00-16:40	行動変容を支援するスキル コーチング演習	田口智博 (三重大学)
7月25日 (水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習(2) 注意:ノート PC 持参のこと	木内貴弘 岡田昌史

「医療コミュニケーション学」講義を受講していることが望ましい。 演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を 届け出ること。

詳しい情報はこちらで⇒



単位/2 Credit:2

精神保健学特論I

Mental Health I

41821121

日本語 Japanese

川上憲人 (医学系研究科) Norito Kawakami (Medicine)

本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus

詳しい情報はこちらで■

授業時間 Semester/Time

S semester 火 (Tue), 5 限 (16:50-18:35)

受業の目標・概要

精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の 基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究(ケーススタディ)を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけ ることを目的とする。

4 / 10 4 / 17 4 / 24 オリエンテーション、総論(川上) 精神疾患の疫学(川上)

2)

3) 精神健康の評価 (川上)

4) 精神健康のスクリーニング(川上)

5/1 5/8 5/15 5/22 5/29 6/5 5) 第一次予防と心理社会的支援(宮本、今村)

6) 精神保健サービスの利用(川上)

8)

精神保健サービスの利用 (川上) 課題発表 1:科学的根拠に基づく精神保健対策 トピックス①:自殺予防対策はどう進める (本橋豊非常勤講師;大塚俊弘上級専門職、国立精神・神経医療研究センター) トピックス②:認知症在宅ケアの質を改善する(中西三春) トピックス③:薬物使用は犯罪か病気か(原田隆之教授、筑波大学)

6/12 9)

10)

6 / 19 6 / 26 7 / 3

(休講) トピックス④: 災害時の精神保健(金吉晴連携教授) 11)

7/10 12) 発表準備

7/17 13) 課題発表2:精神保健対策を立案する(5,6限)※

夏修上の注意 otes on Taking th Course

最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。 講義を担当する教員は川上憲人、今村幸太郎、宮本有紀、金吉晴(連携教授)、外部講師

THE UNIVERSITY OF TOKYO 22

精神保健学特論II

Mental Health II

41821122 Japanese 川上憲人(医学系研究科) 本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 Norito Kawakami (Medicine) SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus

A semester, 火 (Tue), 5限 (16:50-18:35)

職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえ た対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。

- コース概要、産業精神保健総論(川上憲人)
- 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策(森 晃爾)
- 10 / 2 10 / 9 10 / 16 10 / 23 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと (難波克行)
- 労働者の睡眠とメンタルヘルス (高橋正也)
- 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス(島津明人)
- 10 / 30 11 / 6 11 / 13 労働者の復職支援プログラム(五十嵐良雄)
- 職場のメンタルヘルスと両立支援(江口 尚)
- 職場のメンタルヘルスの一次予防①(今村幸太郎)
- 職場のメンタルヘルスの一次予防② (渡辺和広・櫻谷あすか)
- 11 / 20 11 / 27 12 / 4 職場のいじめとメンタルヘルス (津野香奈美)
- 12/11 経営と産業保健は協調できるか? (北居 明)
- 12 / 18 健康経営と職場のメンタルヘルス (古井祐司) 12 / 25 これからの職場のメンタルヘルス (川上憲人)

精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが 望ましい。

詳しい情報はこちらで⇒



単位/2 Credit:2

健康社会学

科目番号 Course ID Number	使用言語 Language	英語 English
担 当 教 員 Teacher Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
A 4	0 00 10 15 10 05 10 10)	

A1 term, 金 (Fri), 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)



社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学と の接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。

Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health, health impacts of built environment and social environment, medicalization and clinical gaze, and sociology of body/embodiment.

Perspective of sociology and health sociology(橋本) Social stratification and socioeconomic status(橋本)

9/28 2) 2 限

10/ 5 10/ 5 3) 1限 Social stratification and health (橋本)

2限1限 4) Social relationship and health (杉澤)

コニニ applied to health(高ス 1限 Complementary/alternative healthcare(中山) 2限 Sociology of school health(朝倉) 公衆衛生学会のため休講 1限 Lay epidemiol Sociology of community applied to health(高木) Social network analysis(高木) 10/12 5)

6) 7) 10/12

10/19

8) 10/19

10/26

Lay epidemiology, illness behavior(橋本) Sociology of body and embodiment(橋本) 9) 11/ 11/ 10) 2限

11/ 9 11/ 9 1 限 World of medicine; archives 2 限 World of chronically ills; pheno 1 限 Open discussion(橋本·高木) World of medicine; archeological perspective (橋本) 11)

World of chronically ills; phenomenological view (橋本)

12) 13)

講積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外(休み時間)の質問は 原則受け付けない。





単位/ 2

健康教育学

Health Education

41818213 英語 English 橋本英樹 (医学系研究科) 本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 Hideki Hashimoto (Medicine) SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus

A2 term, 金 (Fri), 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)

生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論 のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での 長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。

This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention, by applying them to case scenarios. Then, invited lecturers will provide "real world practice" examples for health promotion, with emphasis on marketing, empowerment approach, media message design, and community building. Each frame of theories will be critically discussed for their strength and weakness to help integration of existing frames to facilitate effective health promotion in the community/ workplaces.

Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本)

2) 11/30 Macro level theories of community organization applied (橋本) 12/ 1 限 Empowerment approach in community I (岩永)

2限1限 12/ 7 4) Empowerment approach in community II (岩永)

Social marketing applied to physical activities (鎌田) Public message design for health promotion (林) Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/14 5) 12/14 12/21 6) 7)

1限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 12/21 8)

2限1限 9) Health literacy and ethics of behavioral modification(橋本)

1/18 1/18 2限1限 Public intervention for community health (馬場)

1/25 Decision making and behavior (橋本)

12) 2限 Wrap-up discussion (橋本)

積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外(休み時間)の質問は 原則受け付けない。

詳しい情報はこちらで



Information, Technology, and Society in Asia 124:

International Conflict Study

		\mathcal{L}		
	科目番号 Course ID Number	4971240	使用言語 Language	英語 English
	担当教員 Teacher	藤原帰一(法学政治学研究科) Kiichi Fujiwara (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	本郷キャンパス 法文 1 号館 3 階・第 26 番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
	授業時間 Semester/Time	S semester 火 (Tue) 2限 (10:25-12:10)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	Please be advised that the course, including the final examination, will be given in English.
ı		Milest is an intermediated and istall It he massiful to d	inguaga than amini	ing of intomotional conflicts in means compared and electrost

What is an international conflict? Will it be possible to discuss the origins of international conflicts in more general and abstract ways, or would it be the case that each conflicts are so distinct in nature that rule out theoretical abstraction? Those are the basic topics that I aim to cover in this course.

International conflicts encompass a wide terrain; here I will focus on what has come to be called the new kind of wars, those in which cultural symbols and identity play out in the development of violent conflicts, as opposed to the more traditional kind of warfare based on the acquisition of secular interests.

- Orientation
- The End of the Cold War and International Conflicts
- The Security Dilemma Revisited
- Why go to war?
- New Wars and Old Wars
- Ethnicity, Religion, and National Identities
- Failed States
- Does Intervention Work?
- The Constructivist Challenge
- 10. Interdependence and International Conflicts
- Is Democracy the Answer?
- 12. In Search of International Institutions
- 13. Conditions for Peace



Information, Technology, and Society in Asia 131:

Modern Japanese Diplomacy

4971310 English 小原雅博 (総合法政専攻) 本郷キャンパス 法文 1 号館 3 階・第 26 番教室 Masahiro Kohara Room 26, 3rd floor, Faculty of Law and Letters Bldg., Hong Campus

S semester 金 (Fri) 4 限 (14:55-16:40)



私たちの守るべき国益とは何か?そして、それをどうやって実現するか? 米国の覇権に陰りが見える中で、台頭する国家やテロリストが跋扈し始め、冷戦後のリベラルな国際秩序は力による現状変更や破 綻国家が生み出す暴力や難民に傷ついている。グローバル化、情報化、技術革新は新たな価値や豊かさを生み出す一方で、リスク や脅威も増大させている。そして、気候変動や感染症などが猛威を振るい、国家や人間の生存を脅かす。今日、国家・国民の安全 と繁栄という国益はこうした多様な挑戦を受けている。日本はこれにどう対処すべきなのか?そして、世界と深くつながる日本と して世界の平和と繁栄、そして自由で開かれた秩序の維持に何ができるのだろうか? 本講義は、以上の問題意識に立って、国益を座標軸の中心に据え、日本の外交、そして世界の平和と繁栄の問題を考えていく。

What is National Interest which we have to defend? How can it be realized?

While the United States is shaky in its hegemony in the world, the rising powers and terrorists are becoming rampant. The liberal international order in the post-Cold War period is hurt by the alteration of the status quo due to violence and a refugee crisis caused by the failure of nation states (failed states'). Globalization and a technology revolution with an ever evolving social media produce new values and affluence, while, on the other hand, they multiply risks and threats in the world. Climate change and infectious diseases are raging and threaten the survival of nation states and humanity. Today, national interest, such as the security and prosperity of a nation and people, faces these various threats. How does Japan tackle them? What can Japan do to maintain the peace and prosperity of the world? What can Japan do to defend free and open international order? Japan is deeply connected to all these issues and therefore is inextricably involved in them.

With an awareness of the above mentioned issues, this course's lectures provide a framework centered around Japan's National

With an awareness of the above mentioned issues, this course's lectures provide a framework centered around Japan's National Interest and how Japanese diplomacy can help maintain the peace and prosperity of the world.



Information, Technology, and Society in Asia 101:

Introduction to Asian Studies: History and International Relations

4971010 松田康博、青山和佳、鍾以江、池亀彩(東文研) 本郷キャンパス 東洋文化研究所三階大会議室 Yasuhiro Matsuda, Waka Aoyama, Yijiang Zhong and Aya Ikegame Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on (Institute for Advanced Studies on Asia) Asia, Hong Campus

A1 term 火·金 (Tue & Fri) 5限 (16:50-18:35)



This course will offer students a series of lectures on Asian history and international relations with the aim of providing a solid foundation in the central topics and most recent scholarship in Asian Studies. This course is required by both M.A.S. and Ph.D. students in the ITASIA program (non-ITASIA students are also invited) and it aims to expand students' knowledge beyond a few specialized countries or areas in Asia by providing a broader perspective of Asia as a whole. Another objective of the course is to offer a better understanding of Asian societies through the study of history. All ITASIA students are also required to concurrently enroll in ITASIA 102 (Seminar on Introduction to Asian Studies: History and International Relations). Students should complete the assigned reading assignments before the respective lectures. the assigned reading assignments before the respective lectures.

- Comparative Politics in Asia: Authoritarianism
- South Asia under Colonialism South-East Asia under Colonialism
- China-Centered World Order and Decline of the Qing Dynasty
- The Meiji Restoration
- Korean Peninsula and Taiwan under Japanese Rule and the Birth of the Divided Nations Decolonization of South Asia
- Rise, Fall and Reconstruction of Japan
- Decolonization of South-East Asia
- ROC Era and Establishment of the PRC International Relations during the Cold War International Relations after the Cold War
- Final Exam

詳しい情報はこちらで→



Course Text and Reading Materials:

Rhoads Murphey, A History of Asia, International Edition (New York: Pearson, 2008)
Warren I. Cohen, East Asia at the Center (New York: Columbia University Press, 2000)
Crispin Bates, Subalterns and Raj: South Asia since 1600 (London & New York: Routledge 2007)
Anthony Reid, A History of Southeast Asia: Critical Crossroads (Malden, Oxford and Chichester: Wiley Blackwell, 2015) Students can borrow the required textbooks 1 and 2 from the Interfaculty Initiative in Information Studies Library (iii Library), or Graduate School of Interdisciplinary Information Studies Library http://www.lib.iii.u-tokyo.ac.jp/index-e.html, for the entire semester. Syllabus, instructions for take home exams, and PDF files of chapters in the textbooks 3 and 4 et al. can be downloaded at ITC-LMS.



単位/2

Information, Technology, and Society in Asia 128:

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number		使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	赤座英之(情報学環)、河原ノリエ(情報学環) Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 第1セミナー室 Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 金(Fri)4 限(14:55-16:40)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	Evaluation Evaluation comprises the following components: attendance, short reports submitted after each lecture*, presentation, final report.
	Positioning and Aims of the Course		

Positioning and Aims of the Course

This lecture course is multidisciplinary and aims to bring together students from various fields to learn about an issue that has tended previously to only be perceived from a specialist angle. By providing students with the opportunity to learn about matters outside their own area of specialization, the course aims to also provide an opportunity for students to relativize their own studies. The field of cancer is one that has a high degree of specialization and it has not necessarily interacted well or been open to collaboration with other fields of study to date. This course aims to support the development of the next generation of experts who are adept at working in interdisciplinary environments and will be the driving force behind research in their various fields, based on the recognition that the role of a modern university is to create innovation in response to social issues.

Attainment Targets for Course Participants

Through this course students will gain an understanding of the current status and challenges for cancer in Asia and also the significance of UHC as a policy concept. By considering the impact that UHC could have on cancer in Asia and reviewing various reference papers on this topic, students will present their own opinions with regard to the structures and methods that could ensure the realization of UHC for cancer in Asia. www.siccn.org

詳しい情報はこちらで➡



単位/4 Credit:4

Information, Technology, and Society in Asia 133:

Japanese Foreign Economic Policy

) F			
科目番号 Course ID Number	4971330	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	飯田敬輔(総合法政専攻) Keisuke lida	場 所 Venue	本郷キャンパス 法文 1 号館 A1 演習室 Seminar Room A1, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 火 (Tue) 4,5限 (14:55-16:40,16:50-	-18:35)	

The goal of this course is to explain how Japan's foreign economic policy is made and where its characteristics come from. This course is primarily intended for international students wanting to understand the political and economic underpinnings of Japan's foreign economic policy, but it will be also useful for students who anticipate practicing foreign economic policy in their professional life, or those who will help shape governmental foreign economic policy in the private sector.

Week 1: Introduction Week 2: IPE Theory Theory of Japanese Foreign Economic Policy Week 3:

Week 4: Week 5: Trade 1 Week 6: Trade 2

Week 7: Investment Week 8: Development Week 9: Environment Week 10: US-Japan

Week 11: Asia Week 12: Europe Week 13: Simulation

High proficiency in spoken and written English is required.

文化·人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

4917030 Japanese 本郷キャンパス 情報学環 本館7F 第一演習室 真鍋祐子 (東洋文化研究所) Yuko Manabe (Advanced Studies on Asia) Room 1, 7th floor iii Main Building, Hongo Campus

A semester 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)

2016、17年度に続き、今年度も、沖縄で戦時性トラウマの診療と、福島県相馬市で被災者のトラウマ治療にあたっておられる蟻塚亮二医師(メンタルクリニックなごみ・院長)を外部講師に迎え、地域特有の歴史的、政治的、文化的な文脈を踏まえた精神医療の現場について学び、そこに人文系研究がいかに連携できるかを考える。

2016 年度は宗教人類学、17 年度は植民地主義の観点から、実際に沖縄と福島で行われているトラウマ治療の臨床事例をとらえたが、今年度は「レジリエンス」をキーワードとする。震災直後から被災地に通い、主として文化復興の視点からレジリエンス を論じている宗教学の黒崎浩行教授(國學院大學)より、レジリエンスの理論と実践についてご講義いただく。

本授業は沖縄、福島がおかれた現状をめぐり、政局を論じることを目的としません。本シラバスに記した「授業の目標」を逸脱した議論に対しては、出席、レポート、討論参加を満たしていても、一切評価の対象とはなりません。

詳しい情報はこちらで➡



単位/2 Credit:2

中国経済

Chinese Economy

291318

丸川知雄(社会科学研究所):伊藤亜聖(社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS), Asei Ito (ISS)

日本語、英語 Japanese, English

本郷キャンパス 国際学術総合研究棟 313 演習室 Room 313, International Academic Research Bldg, Hongo Campus

S semester 水 (Wed) 2限 (10:25-12:10)

この授業では現代の中国経済の基本を学ぶことを目的とする。取り上げるテーマは経済成長、経済体制と改革、労働市場、財政と 金融、技術、国有企業、貿易と直接投資、民間企業と産業集積である。

The purpose of this course is to learn the basics of Chinese economy. The topics that will be dealt with in this course are: economic growth, economic system and reform, labor market, public finance and banking, technology, state-owned enterprises, foreign trade and direct investment, private firms and industrial agglomeration.

- 1. Introduction 導入
- 2. Long-term economic development 長期的な経済発展の展望
- 3. Planned economy and market economy 計画経済と市場経済 4. Labor market 労働市場
- 5. Public finance and banking 財政と金融
- 6. Technology 技術
- 7. State-owned enterprises and industrial policy 国有企業と産業政策 8. Trade and foreign direct investment 貿易と直接投資
- 9. Private firms and industrial agglomeration 民間企業と産業集積

使用言語は日本語もしくは英語とする。どちらかを用いるかは参加者の状況を見て決める。

The language used in class will either be English or Japanese, depending on the partici-pants' language abilities.





単位/2

東アジア産業論 ~国際経済特論~

East Asian Industries

291319-01

日本語、英語 Japanese, English

丸川知雄(社会科学研究所)、伊藤亜聖(社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS), Asei Ito (ISS)

本郷キャンパス 国際学術総合研究棟 313 演習室 Room 313, International Academic Research Bldg, Hongo Campus

A semester 水 (Wed) 2 限 (10:25-12:10)

この授業では東アジアの産業に関する実証的分析方法を学ぶことを目的とする。中国、韓国、台湾、日本の製造業や第3次産業に関する実証分析を輪読しながら東アジアの産業の実態と分析手法を学んでいく。

The purpose of this course is to learn empirical methods of analyzing East Asian industries. Through reading empirical studies on manufacturing and service industries of China, Korea, Taiwan, South East Asia, and Japan, we will learn the realities of East Asian industries and grasp the skills to analyze them.

- 1. Long-term issues of East Asian development
- 2. Discussions on the "Lewisian turning point"
 3. The rise of China in the global political economy and its impact on the rest of the world
- 4. Technology change and innovation in East Asia
- 5. Regional dynamics and regional industrial development in East Asia

使用言語は日本語もしくは英語とする。どちらかを用いるかは参加者の状況を見て決める。

The language used in class will either be English or Japanese, depending on the participants' language abilities.

詳しい情報はこちらで



注意①:正規課程とプログラム履修の関係について

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。 したがって、本プログラムにおいて「他研究科(教育部)履修」、 「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教 育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研 究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from "Other graduate school (educational department) enrolment" or "Undergraduate course enrolment" vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

NOTE 1: Standard curriculum and taking part in the program

注意②:修士課程から博士課程に進学した時の扱い NOTE 2: Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に 12 単位を修得した場合だけ でなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、 両課程を通して12単位を取得することで修了と認定されます。 ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を 取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取 得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③: 平成 18 年度~ 20 年度の「日本・アジア学講座」との関係 NOTE 3: Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成 18 年度~ 20 年度の期間に「日本・アジア学講座」とし て開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には 修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.

言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意(履修者の制限など)を、ウェブサイトならびに UTAS 上で確認してください。 どちらのキャンパス(本郷・駒場)の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the UTAS website.

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
中国語前期Ⅰ	04185601	張 佩茹	S1+S2	2	ヒンディー語 II	04185640	橋本 泰元	A1+A2	2
中国語前期 II	04185602	張 佩茹	A1+A2	2	韓国朝鮮語初級Ⅰ	04185641	李 文淑	S1+S2	2
中国語後期Ⅰ	04185603	張 佩茹	S1+S2	2	韓国朝鮮語初級 II	04185642	五十嵐 孔一	A1+A2	2
中国語後期 II	04185604	張 佩茹	A1+A2	2	韓国朝鮮語中級	04185643	五十嵐 孔一	A1+A2	2
中国語後期 III (教養学部と共通)	04185605	白 春花	S1+S2	2	アラビア語 I	04185644	榮谷 温子	S1+S2	2
中国語後期 IV(教養学部と共通)	04185606	白 春花	A1+A2	2	アラビア語 II	04185645	榮谷 温子	A1+A2	2
中国語後期 V (教養学部と共通)	04185658	白 春花	S1+S2	2	ペルシア語 I	04185646	渡部 良子	S1+S2	2
中国語後期 VI (教養学部と共通)	04185659	王前	S1+S2	2	ペルシア語 II	04185647	渡部 良子	A1+A2	2
中国語後期 VII (教養学部と共通)	04185660	王前	A1+A2	2	チベット語Ⅰ	04185654	星泉	S1+S2	2
ヒンディー語 [04185639	橋本 泰元	S1+S2	2	チベット語 II	04185655	福田 洋一	A1+A2	2

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

科 目 名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通中国語(1)(精読)	08A4001	秋山 珠子	S1S2	2	共通中国語(49)(初級)	08A4049	張 玉萍	S1S2	2
共通中国語(2)(会話)	08A4002	姚 毅	S1S2	2	共通中国語(50)(初級)	08A4050	張 玉萍	A1A2	2
共通中国語(3)(作文)	08A4003	柴 森	S1S2	2	共通中国語(51)(精読)	08A4051	李 彦銘	S1S2	2
共通中国語(4)(精読)	08A4004	橋本 陽介	S1S2	2	共通中国語(52)(精読)	08A4052	白 春花	S1S2	2
共通中国語(5)(会話)	08A4005	喬 志航	S1S2	2	共通中国語(53)(会話)	08A4053	白 春花	S1S2	2
共通中国語(6)(作文)	08A4006	何 珍時	S1S2	2	共通中国語(54)(会話)	08A4054	鄧 芳	S1S2	2
共通中国語(7)(精読)	08A4007	伊藤 博	S1S2	2	共通中国語(55)(作文)	08A4055	王前	S1S2	2
共通中国語(8)(中級)	08A4008	伊藤 徳也	S1S2	2	共通中国語(56)(作文)	08A4056	李 彦銘	S1S2	2
共通中国語(9)(精読)	08A4009	秋山 珠子	A1A2	2	共通中国語(57)(精読)	08A4057	菊池 真純	A1A2	2
共通中国語(10)(会話)	08A4010	劉 岸麗	A1A2	2	共通中国語(58)(精読)	08A4058	白 春花	A1A2	2
共通中国語(11)(会話)	08A4011	姚 毅	A1A2	2	共通中国語(59)(会話)	08A4059	未定	A1A2	2
共通中国語(12)(会話)	08A4012	毛 興華	A1A2	2	共通中国語(60)(会話)	08A4060	菊池 真純	A1A2	2
共通中国語(13)(作文)	08A4013	柴 森	A1A2	2	共通中国語(61)(作文)	08A4061	李 彦銘	A1A2	2
共通中国語(14)(精読)	08A4014	未定	A1A2	2	共通中国語(62)(作文)	08A4062	王前	A1A2	2
共通中国語(15)(会話)	08A4015	未定	A1A2	2	共通韓国朝鮮語(1)	08A8001	崔泰源	S1S2	2
共通中国語(16)(作文)	08A4016	毛 興華	A1A2	2	共通韓国朝鮮語(2)	08A8002	崔泰源	A1A2	2
共通中国語(17)(精読)	08A4017	橋本 陽介	A1A2	2	共通韓国朝鮮語(3)	08A8003	崔泰源	S1S2	2
共通中国語(18)(文法)	08A4018	吉川雅之	A1A2	2	共通韓国朝鮮語(4)	08A8004	崔 泰源	A1A2	2



科 目 名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通韓国朝鮮語(5)	08A8005	張 銀英	S1S2	2	広東語(1)(初級)	08A9441	谷垣真理子	S1S2	2
共通韓国朝鮮語(6)	08A8006	張 銀英	A1A2	2	広東語(2)(中級)	08A9442	吉川 雅之	S1S2	2
共通韓国朝鮮語(7)	08A8007	橋本 繁	S1S2	2	広東語(3)(初級)	08A9443	吉川雅之	A1A2	2
共通韓国朝鮮語(8)	08A8008	橋本 繁	A1A2	2	広東語(4)(中級)	08A9444	郭 マーホー	A1A2	2
共通韓国朝鮮語(10)	08A8010	三ツ井 崇	A1A2	2	インドネシア語(1)	08A9445	高地 薫	S1S2	2
共通韓国朝鮮語(21)(初級)	08A8021	張 銀英	S1S2	2	インドネシア語 (2)	08A9446	高地 薫	A1A2	2
共通韓国朝鮮語(22)(初級)	08A8022	張 銀英	A1A2	2	インドネシア語(3)	08A9447	高地 薫	S1S2	2
共通韓国朝鮮語(25)	08A8025	ジ ミンギョン	S1S2	2	インドネシア語(4)	08A9448	高地 薫	A1A2	2
共通韓国朝鮮語(26)	08A8026	ジ ミンギョン	A1A2	2	上海語(1)(初級)	08A9453	李雲	S1S2	2
共通アラビア語(1)	08A9001	濱田 聖子	S1S2	2	上海語(2)(初級)	08A9454	王 英輝	A1A2	2
共通アラビア語(2)	08A9002	濱田 聖子	A1A2	2	台湾語(1)(中級)	08A9457	王嵐	S1S2	2
共通アラビア語(3)	08A9003	濱田 聖子	S1S2	2	台湾語(2)(初級)	08A9458	王嵐	A1A2	2
共通アラビア語(5)	08A9005	オダイマ ムハンマド	S1S2	2	タイ語 (1)	08A9461	浅見 靖仁	S1S2	2
共通アラビア語(6)	08A9006	オダイマ ムハンマド	A1A2	2	タイ語 (2)	08A9462	浅見 靖仁	A1A2	2
共通アラビア語(7)	08A9007	杉田 英明	S1S2	2	モンゴル語(1)	08A9465	荒井 幸康	S1S2	2
共通アラビア語(8)	08A9008	杉田 英明	A1A2	2	モンゴル語(2)	08A9466	荒井 幸康	A1A2	2
共通アラビア語 (9)	08A9009	杉田 英明	S1S2	2	ペルシャ語 (1)	08A9469	前田 君江	S1S2	2
共通アラビア語(10)	08A9010	杉田 英明	A1A2	2	ペルシャ語 (2)	08A9470	前田 君江	A1A2	2
ヒンディー語 (1)	08A9417	藤井 毅	S1S2	2	ヘブライ語 (1)	08A9473	飯郷 友康	S1S2	2
ヒンディー語 (2)	08A9418	藤井 毅	A1A2	2	ヘブライ語 (2)	08A9474	飯郷 友康	A1A2	2
ヒンディー語 (3)	08A9419	藤井 毅	S1S2	2	サンスクリット語(1)	08A9477	梶原 三恵子	S1S2	2
ヒンディー語 (4)	08A9420	藤井 毅	A1A2	2	サンスクリット語 (2)	08A9478	高橋 晃一	A1A2	2
ベトナム語 (1)	08A9425	加藤 栄	S1S2	2	シリア語 (2)	08A9482	高橋 英海	A1A2	2
ベトナム語 (2)	08A9426	加藤 栄	A1A2	2	専門中国語(2)	08B4002	石井 剛	A1A2	2
ベトナム語 (3)	08A9427	岩月 純一	S1S2	2	専門中国語(3)	08B4003	川島真	A1A2	2
ベトナム語 (4)	08A9428	岩月 純一	A1A2	2	専門韓国朝鮮語(2)	08B8002	未定	A1A2	2
トルコ語 (1)	08A9433	高松 洋一	S1S2	2	専門韓国朝鮮語(3)	08B8003	長澤 裕子	S1S2	2
トルコ語 (2)	08A9434	高松 洋一	A1A2	2	専門韓国朝鮮語(4)	08B8004	崔泰源	A1A2	2
トルコ語 (3)	08A9435	高松 洋一	S1S2	2	専門アラビア語(2)	08B9002	杉田 英明	S1S2	2
トルコ語 (4)	08A9436	高松 洋一	A1A2	2					

日本・アジアに関する教育研究ネットワークの活動

ASNET では、全学大学院生向けの『日本・アジア学』教育プログラムのほかに、以下の教育活動と研究交流活動を行っ ています。

1. 教育活動

· 教養学部 前期課程(1,2年生)講義

単位/2 Credit:2

地域文化論 I ~日本・アジア学概論:国際社会で活躍する基盤を身に付ける~

科目番号		使用言語	日本語
Course ID Number		Language	Japanese
担当教員	ASNET 関連教員	場 所	駒場キャンパス 5 号館 521 教室
Teacher		Venue	Bldg.5 Room 521, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 月 (Mon) 3限 (13:00-14:45)		

--------受業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

わが国の国内経済は曲がり角を迎え、多方面で構造改革が叫ばれている。一方で国境の垣根はますます低くなり、世界標準(グ ローバルスタンダード)が押し寄せてくるとともに、環境問題のように地球全体で取り組むべき課題も山積している。これからは、 国際社会で活躍できる人材が求められている。

近年、アジアの成長は目覚ましく、アジアにおける経済、政治、技術、環境など各動向は、国際社会全体を大きく左右する。す アジアを学ぶことは国際社会で活躍するために不可欠である。

本講義は、本学の「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET)」に参画する教員による日本・アジア学の概論と位 置づけられる。様々な視点からアジアを切り取る方法論や知識を学ぶことにより、日本・アジア学の魅力を体験し、国際社会で活 躍するためにどのような知識・能力・スキルが必要となるのかを理解する。

- (4/9) イントロダクション「地域研究の課題と魅力」(丸川知雄、社会科学研究所)
- (4/16) 社会技術論入門(小松崎俊作、工学系研究科) (4/23) 地域文化研究論入門(岡田泰平、総合文化研究科) 第2回
- 第3回
- 第4回 (5/7)ケース I インドにおける社会基盤整備事業とビジネス(小松崎・ゲスト講師)
- (5/14) 地域としてのインド 第5回
- ケース II イスラム圏とハラール産業 (後藤絵美、ASNET) 第6回 (5/21)
- 第7回 (5/28)地域としてのイスラム圏
- 第8回 (6/4)ゲスト講師
- (6/11) ケースⅢ 中国の法とメディア(徐行、東洋文化研究所) 第9回
- 地域としての中国 第10回 (6/18)
- 第 11 回 (6/25)ケースIV 日本における移民政策(森川想、工学系研究科)
- (7/2)ゲスト講師 第12回
- 第13回 (7/9) 全体のまとめ

本講義は東京大学の学部 1, 2 年生向けです。大学院生等は受講できません。

詳しい情報はこちらで➡



スタディツアーの実施

平成29年度は7月にミャンマーで「ミャンマーの農・食・環境・社会に触れる」を、1月に北海道で「現代を生きるアイヌ民 族とその伝承」を実施しました。

・その他、教育セミナー等も随時実施しています。



2. 研究交流活動

研究者の分野間交流

東洋文化研究所 (Institute for Advanced Studies on Asia) や東京大学国際日本学プログラム (Global Japan Studies) との共 催で毎週木曜日午後5時からセミナーを開催しているほか、国際会議、シンポジウム、セミナー、研究会等も随時開催し、分野 間交流を進めています。



東京大学×テヘラン大学交流会(2017年1月)



映画シンポジウム「アジアを知る」(2017年12月)

・ウェブサイト・メールマガジン

ASNET のウェブサイトでは、アジアに関連するセミナーや研究会、シンポジウム等の情報を紹介しています。またメールマガジ ンを毎週金曜日に発行しています。メールマガジンは誰でも無料で受信できます。

https://asnet-utokyo.jp/







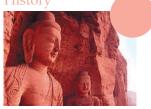




Nature



History









東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク Network for Education and Research on Asia

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- ○学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ○ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- ○研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。 どなたでも、無料で受信することができます。

ウェブサイトから受信登録をするか、事務局までメールで受信希望のメールをお寄せください。

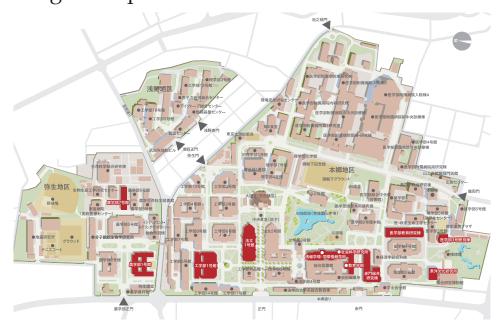
 $Network \ for \ Education \ and \ Research \ on \ Asia \ is \ a \ virtual \ network \ for \ the \ education/studies \ on \ Asia.$ The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free. Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL: https://asnet-utokyo.jp/

E-mail: asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

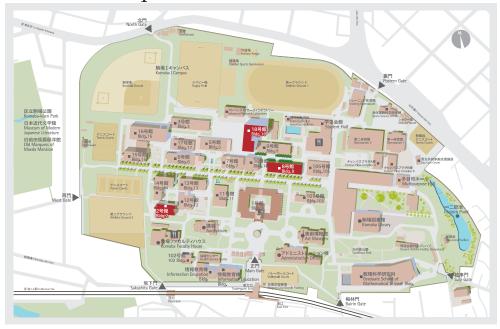
Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

電		話/	Tel
内		線/	Ext
Х	_	ル	E-mail
イン	クーネ	マト/	URL

03-5841-5868

25868

asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

https://asnet-utokyo.jp/